

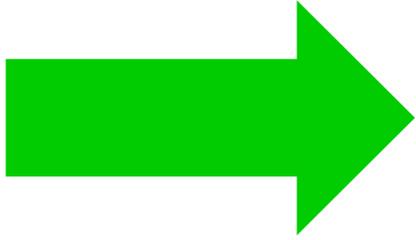
導入

不適合TSH分泌症候群(SITSH)はまれな病態で、甲状腺ホルモン不応症、TSH産生下垂体腺腫、異常アルブミン高T₄血症などがある。

筆者らは5年前、それとは逆のパターンを呈するSITSHの症例に遭遇した。血中FT₄が軽度であるが低値を示すにも拘らず血中TSHの上昇しない所見であった。

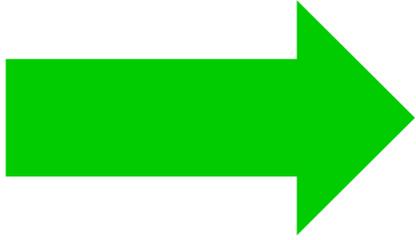
原因は確定できなかった。

その後同様の所見を呈する例が稀に存在することを認めため、共通の異常を有する症候群を見ているのではないかと考え精査した。



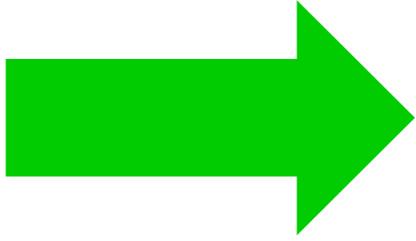
同じFreeT₄レベルのコントロール群と比べBMIがやや低く、血中コレステロール値が有意に低かった。

このことから末梢組織が甲状腺ホルモンに対し過敏であることが示唆される。

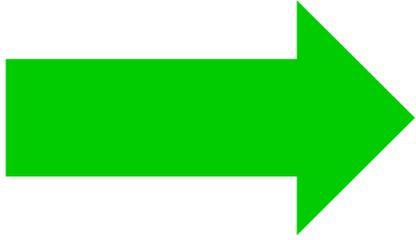


FreeT₃値は高くなかった。

このことからT₃分泌亢進の結果として、代償的にT₄が低分泌になっているのではないと考えられる。

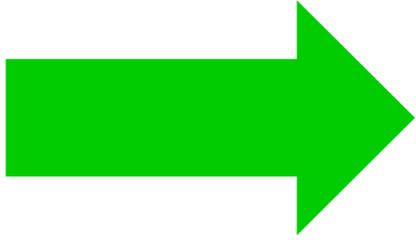


本研究症例は甲状腺ホルモン不応症とは逆のパターンを呈している。



Free T₄ index (total T₄ /TBG)も低いことから、
FreeT₄ が確かに低いことを確認できた。

本症例ではFree T₄ 測定系の問題はない。



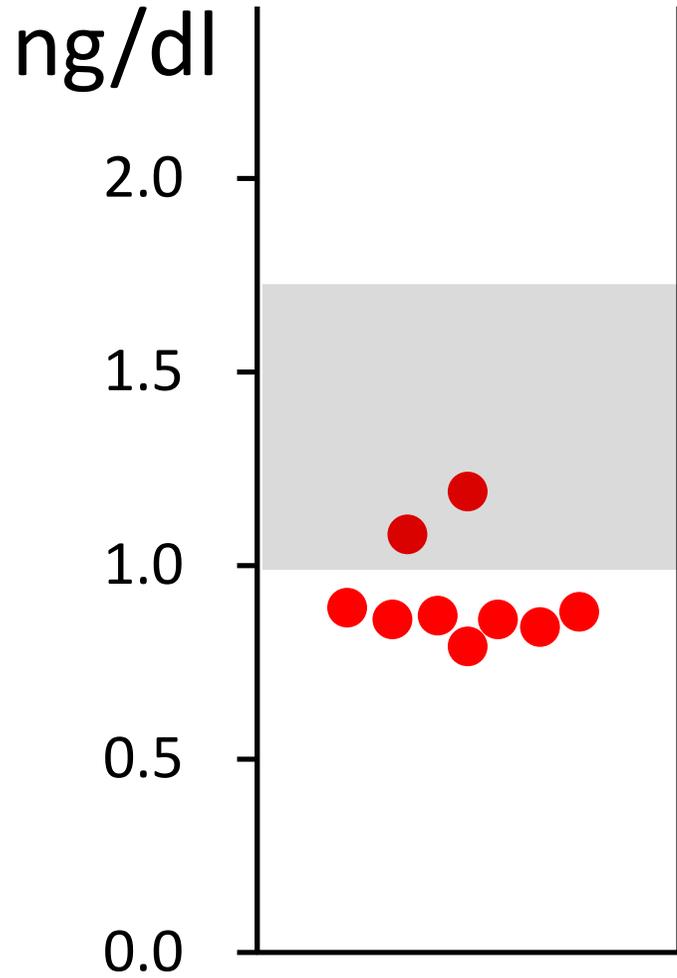
下垂体はTRH刺激に対し正常反応した。

このことからTSH分泌低下による機能低下症ではないと考えられる。

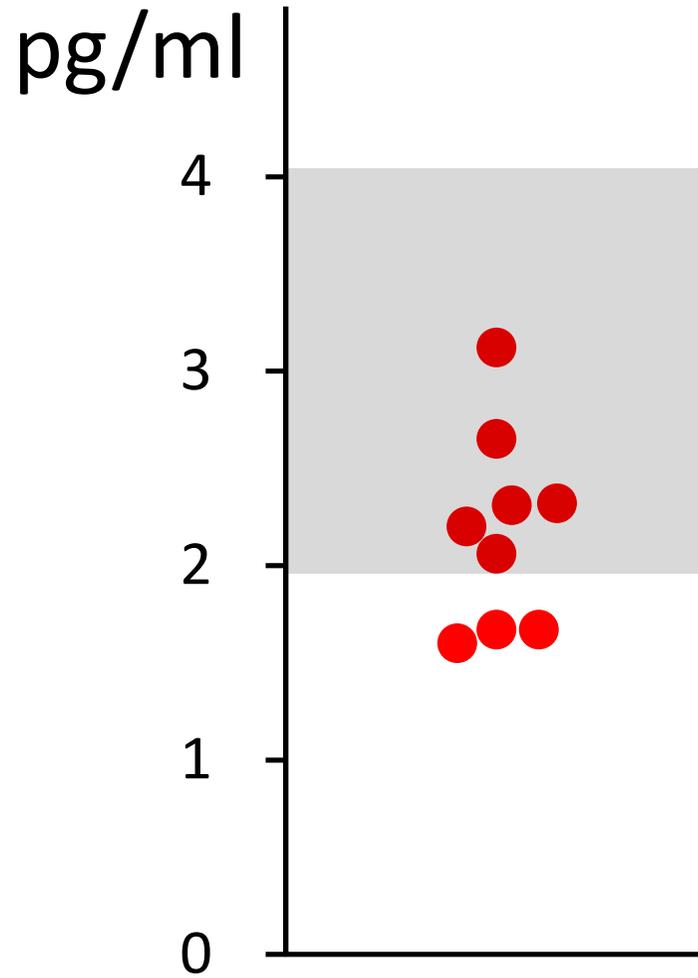
特 徴

1. 患者の多くは血中甲状腺ホルモン低値が認められ
当院へ紹介された例であった。
2. 全例、家族に甲状腺疾患はなかった。
3. 甲状腺体積は決して大きくなかった。
4. 抗甲状腺抗体は1例を除きすべて陰性であった。
5. 甲状腺機能低下の自他覚症状はなかった。
6. 甲状腺機能亢進の自他覚症状もなかった。

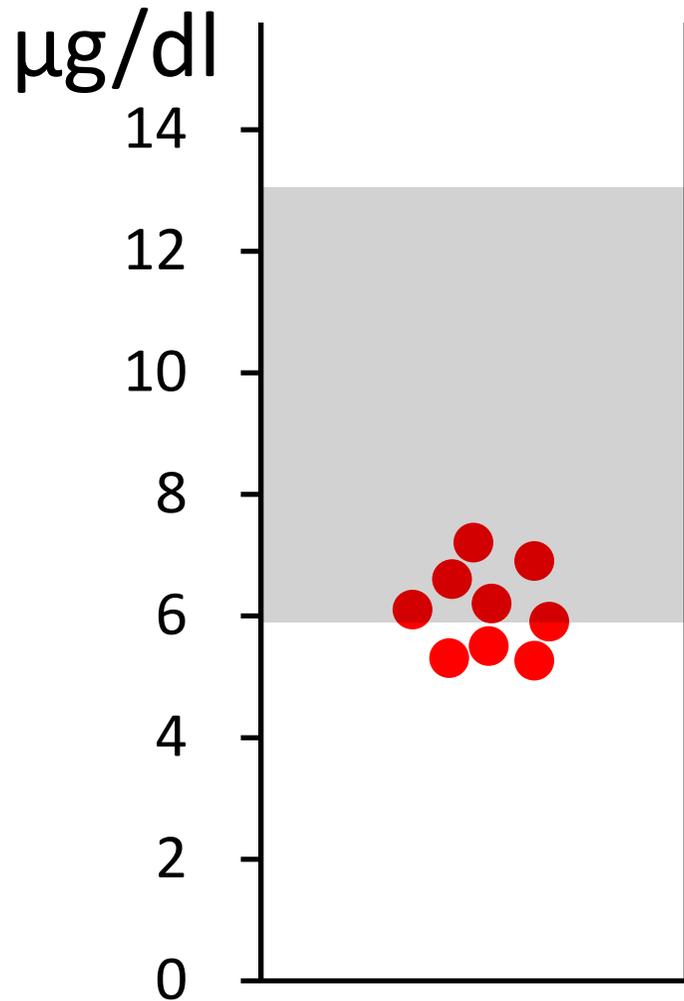
FreeT₄



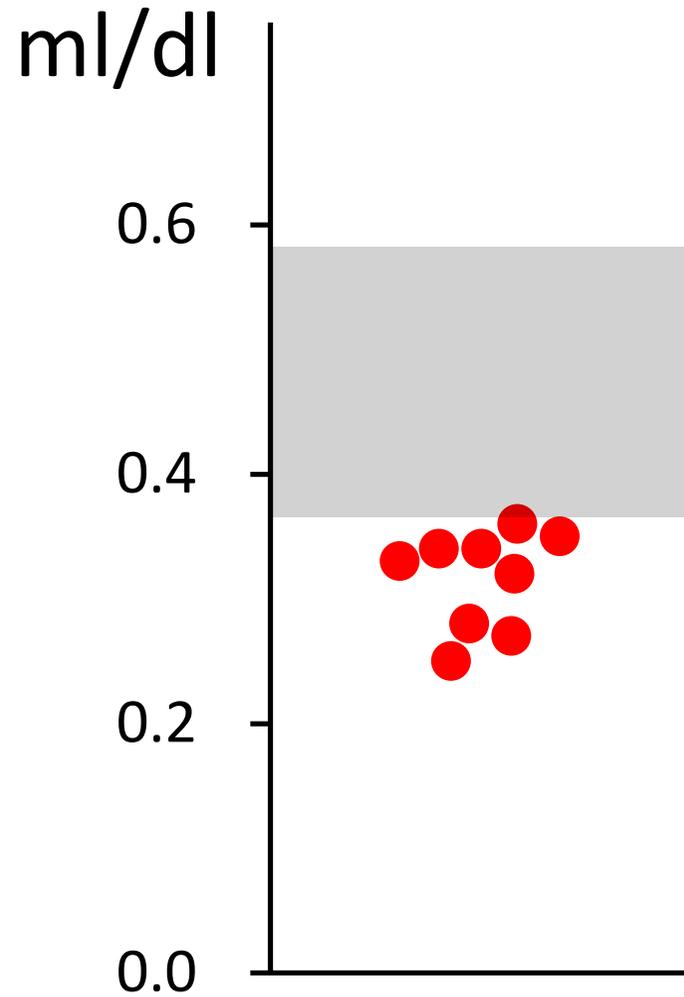
FreeT₃



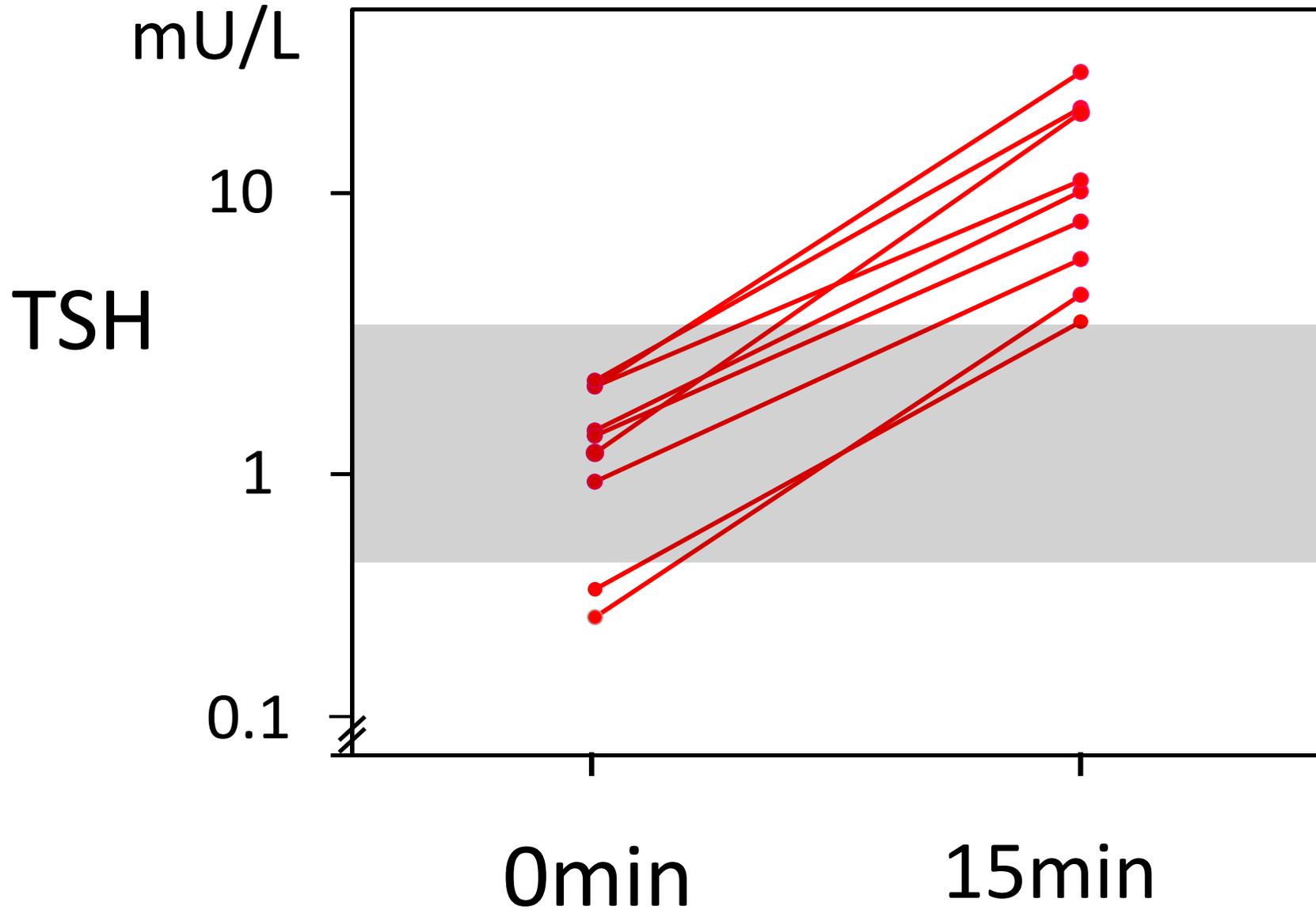
Total T₄



Total T₄/TBG



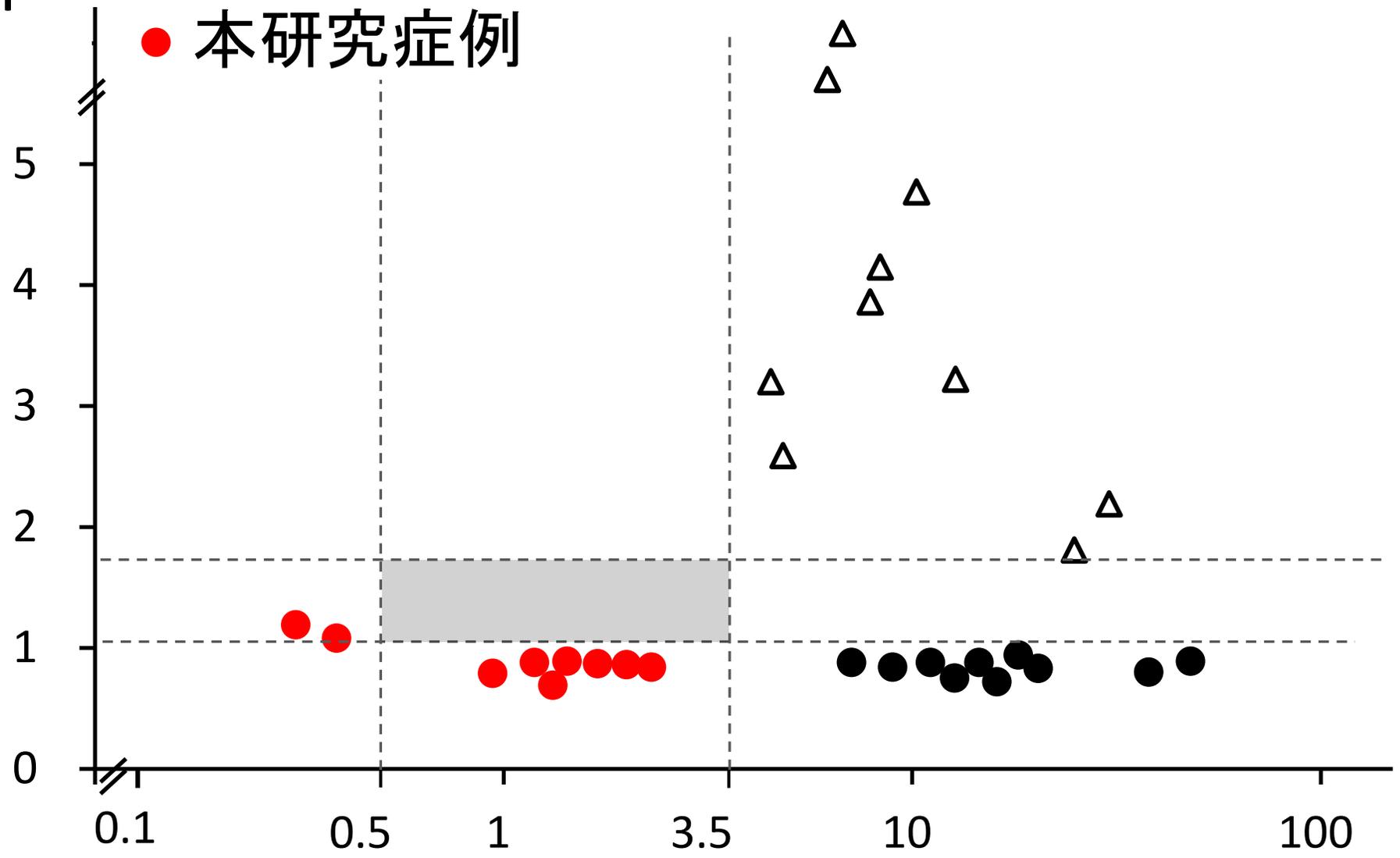
TRH test



- △ 甲状腺ホルモン不応症
- 軽症甲状腺機能低下症
- 本研究症例

ng/dl

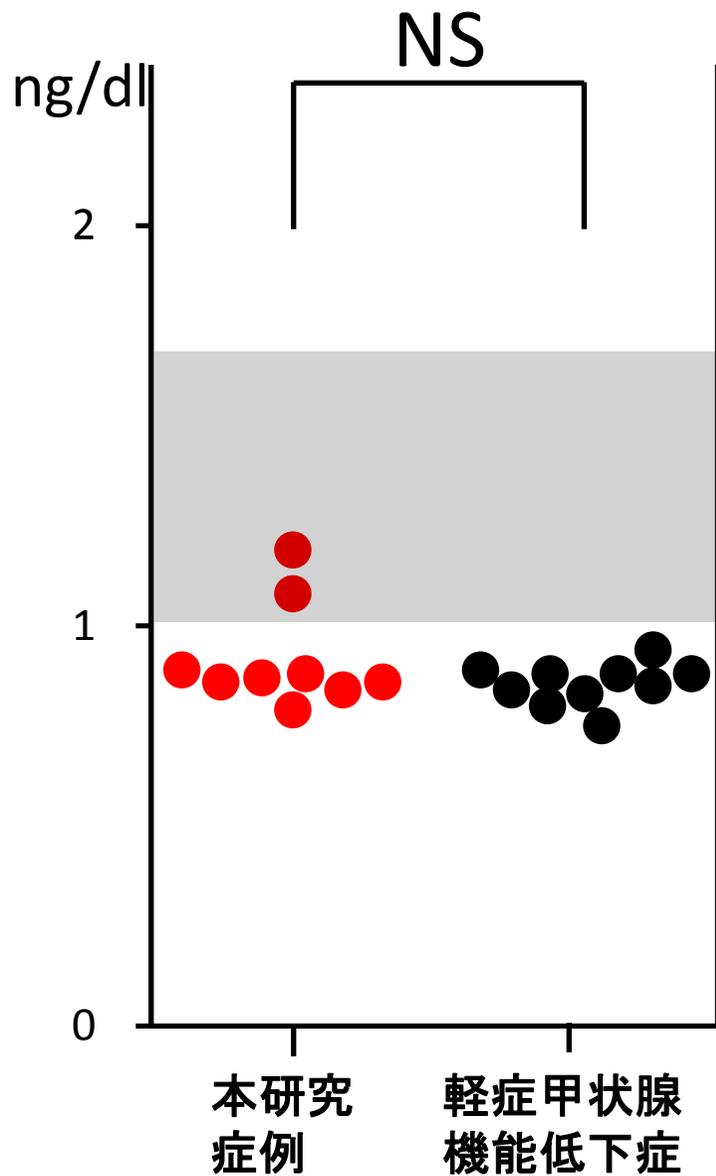
FT₄



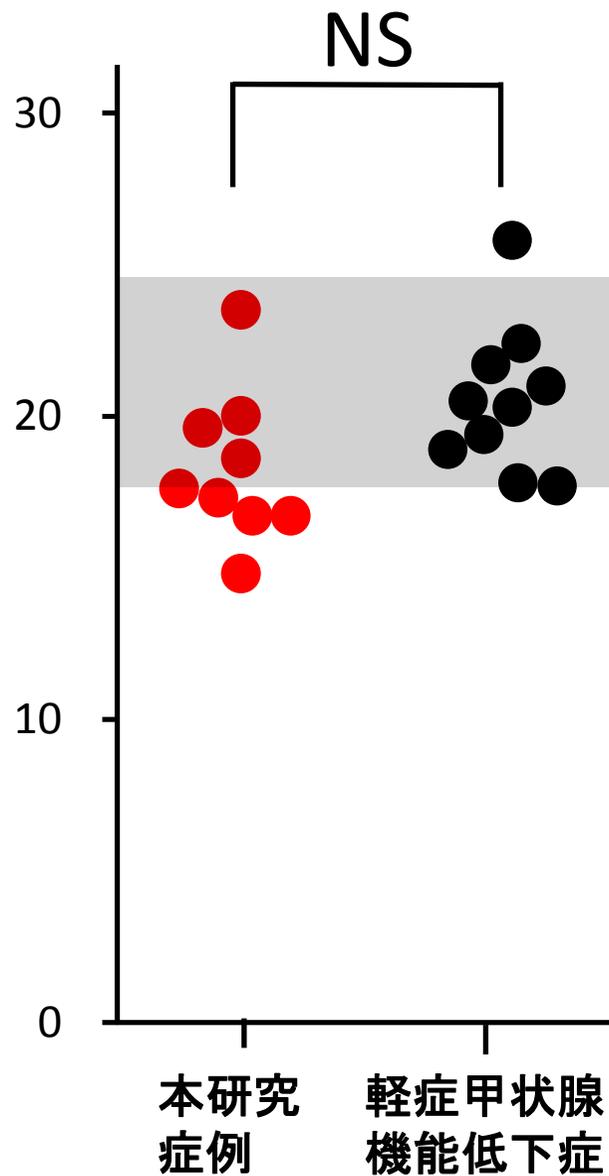
TSH

mU/L

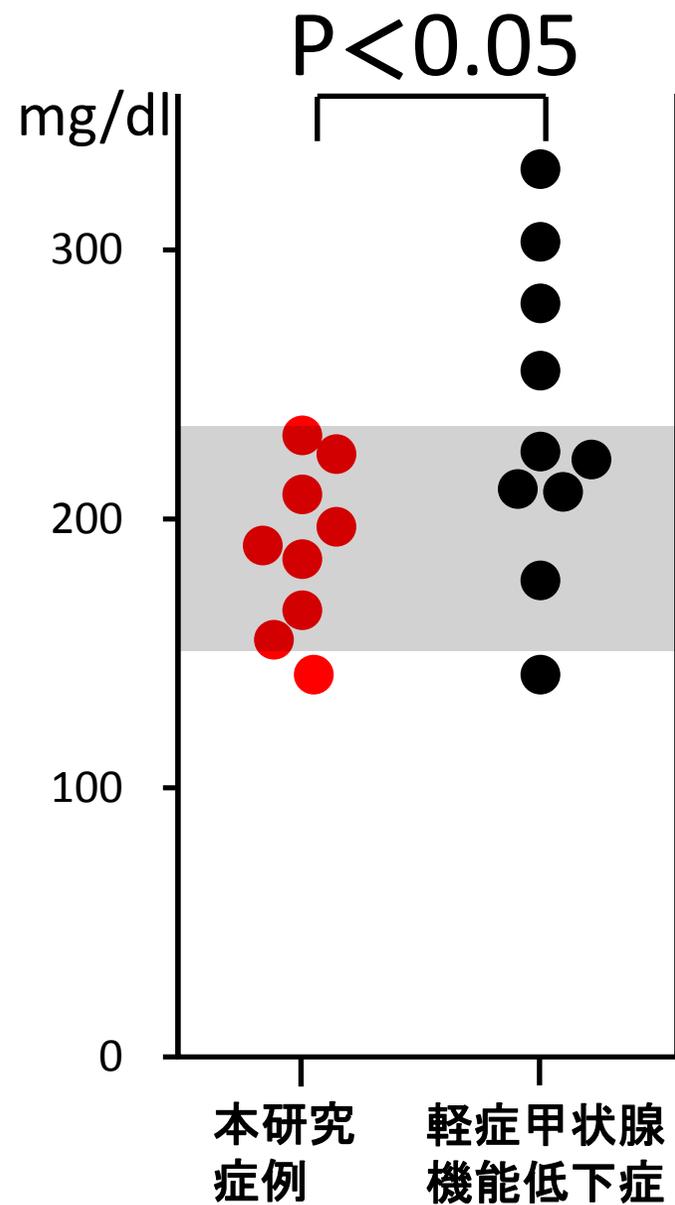
FreeT₄



BMI



T-Cholesterol



結 論

1. 下垂体性甲状腺機能低下症ではない。
2. 甲状腺自己抗体など免疫異常が原因ではない。
3. Euthyroid sick症候群ではない。
4. 甲状腺ホルモン不応症とは反対のホルモン動態を示す。
5. 通常コントロール患者に比べ、BMIが低めでコレステロール値が有意に低い。
6. これまで認識されたことのなかった、全身すなわち末梢組織と下垂体ともに甲状腺ホルモンに対する過敏性を有している病態が示唆される。